

「東日本大地震後的改革與推動」

～於日本宮城縣東松島市的防災教育措施～

1. 東日本大地震

2. 東日本大地震後的措施

- (1) 配置防災主任, 安全主任教師
- (2) 活用副讀本「未來的羈絆」推動防災教育
- (3) 宮城縣災害時學校支援小組
- (4) 與相關機構(大學等)的合作
- (5) 加強學校與地區的合作

3. 地震後第14年的現況與課題

4. 總結



2016 台灣教育部訪問宮城縣石卷市立万石浦國小



2019 日本(宮城縣)防災教育交流訪問計畫



2023 台灣高中生防災視察旅行



2024 台灣教育人員宮城縣防災教育旅行



東日本大地震 巨大的海嘯

東日本太平洋沿岸、因海嘯造成嚴重破壞



名取市海嘯來襲時的模樣



南三陸町

宮城縣東松島市

海嘯高度 最大波浪達19.6m以上
(南三陸町志津川)

1 東日本大地震 ②



名取市関上



南三陸町志津川



山元町坂元



石巻市門脇



東日本大地震概要

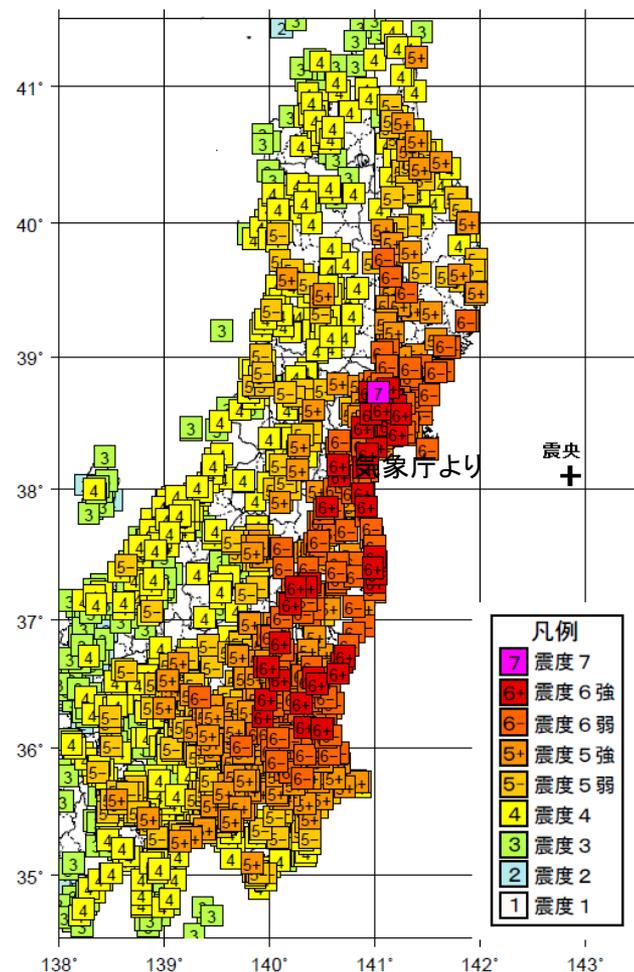
發生時間 平成23年(2011)年
3月11日14時46分

震央 三陸海岸

震源深度 24km

地震規模 芮氏規模(M_w)9.0

最大震度 7
(宮城縣栗原市築館)



東日本大地震的受災情形

	人員傷亡(人)		建築物損壞(棟)	
	死亡人數	失蹤人數	完全損壞	部分損壞
岩手縣	4,674	1,114	19,508	6,571
宮城縣	9,542	1,219	83,004	155,130
福島縣	1,614	196	15,435	82,783
全 國	15,830	2,529	117,947	244,484

警察廳緊急災害警備本部(平成31(2019)年3月8日)

公立學校等受災情形(人員傷亡)

種別		幼兒園	國小	國中	高中	特別支援學校	計
兒童・學生等	死亡人數	8	167	68	79	5	327
	失蹤人數	1	19	7	8	0	35
教職員	死亡人數	0	14	3	1	1	19
	失蹤人數	0	0	0	0	0	0

宮城縣教育委員會截至平成28年(2016年)9月10日

地震時的縣內學校情形

- 受海嘯影響的學校數→89校
(當中54所學校並不位於淹水預想地區)
- 作為避難所的學校數→265校
(最大避難人數4,500人)
(最長開設時間, 至平成23年(2011)10月11日【7個月】)
- 設施受損的學校數→807校
※2棟教職員宿舍、45間公共廚房等設施

摘自「東日本大地震學校應對狀況調查」等調查結果(文部科學省)
母數: 宮城縣公立學校846校(園)

從地震中看見的校園防災課題

- 針對不可預測事態發生的危機體制不完善
- 事前準備不足
- 不拘泥於手冊、靈活判斷情況的重要性

宮城學校安全
基本指針P19~23

「8個」教訓

- 1 促進教職員在日常工作中對防災的共同理解和實踐
- 2 檢討過往的避難訓練
- 3 設定避難所（二級、三級）並確認疏散路線
- 4 根據情況設定安全確認手冊
- 5 事前與監護人確認學生交接規則
- 6 與市政單位合作，完善避難所手冊及避難所的運作
- 7 上下學及在家時的避難應對指導
- 8 以學校為中心，由專業人員提供心理關懷服務



東日本大地震後的具體措施

- (1) 配置防災主任、安全主任教師
- (2) 活用副讀本「未來的羈絆」推動防災教育
- (3) 宮城縣災害時學校支援小組
- (4) 與相關機構(大學等)的合作
- (5) 學校與地區的合作強化



東日本大地震後的具體措施

(1) 配置防災主任，安全主任教師

(1) 配置防災主任，安全主任教師

平成23年
(2011年)

● 東日本大地震發生

為推動防災教育，體制完善的必要性

向後代傳達
地震災害的教訓

提高危機意識

防災教育體制的建置

平成24年
(2012年)

工期學校安全基本指針的制定

防災主任

防災主任教師

幼・私・國立
防災負責人

平成28年
(2016年)

安全主任教師
(安全三領域，霸凌・逃學)

(1)配置防災主任，安全主幹教師

宮城學校安全
基本指針P30

為推動防災教育，並建構與社區合作在內的防災體系，於各校配置**防災主任**

為強化防災主任的核心職能，於地區據點學校，配置**防災主任教師**
※自2016年起改為**安全主任教師**

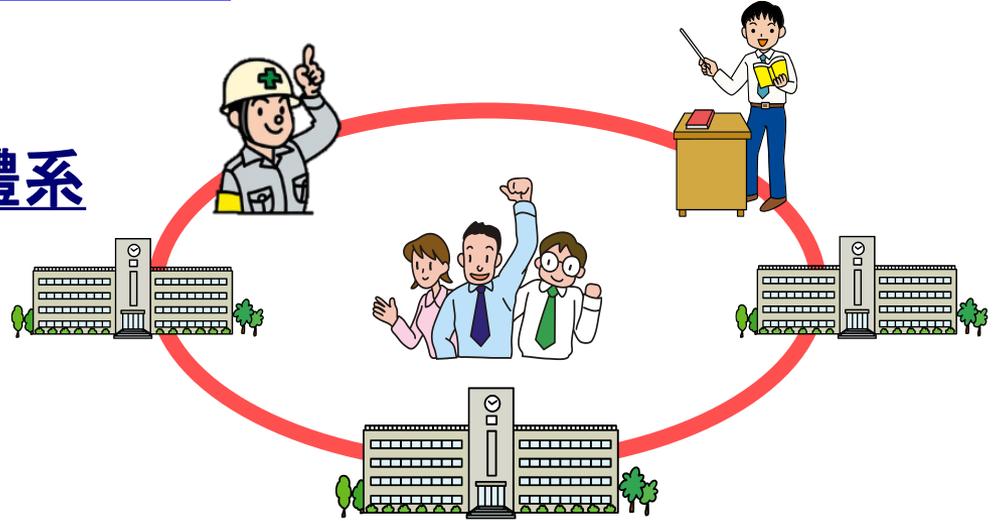


(1)配置防災主任，安全主幹教師

安全主幹教師的主要角色

① 據點學校的角色

- 建置學校與地區的合作體系
- 防災主任的支援
- 諮詢與資訊提供
- 教師研修的合作



② 與地區·相關機構的合作

- 協調相關機構、防災部門之間的聯繫
- ※以上內容將擴展至【災害安全、交通安全、生活安全】三大領域

③ 霸凌·逃學·心理關懷相關區域合作業務

- 舉辦地區負責人員聯絡會議等
- 與相關機構(健康福利、警察等)建立合作體制

(1)配置防災主任，安全主任教師

防災主任的主要角色

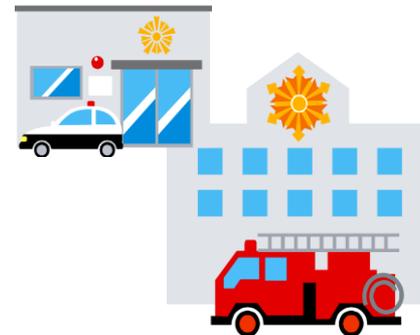
宮城學校安全
基本指針P29

【校內】

- ・防災教育計畫的立案・實踐
- ・防災訓練等的計畫・實施
- ・校內研修企劃
- ・防災手冊製作・審查
- ・災害緊急應變(中心)
- ・支援避難所運營

【校外】

- ・於防災部門的聯絡協調
- ・地區聯合訓練、避難所運營訓練的實施
- ・學校間的資訊交流、實踐交流
- ・與地區相關機構(町內會、企業、設施等)的聯繫協調・合作推動



東日本大地震後的具體措施

(2) 活用副讀本「未來的羈絆」推動 防災教育

(2)活用副讀本「未來的羈絆」推動防災教育



為了不再讓災害造成犧牲，並為下一次災害做好準備，**致力於內化防災意識**

(2)活用副讀本「未來的羈絆」推動防災教育

利用地震速報系統聲源進行訓練 (柴田町立船迫中學校)

學習計畫

- ・學習緊急地震速報的意義
- ・使用緊急地震速報的聲源進行訓練
- ・火災情境下的二次避難訓練
與消防單位合作實施煙霧避難訓練
- ・模擬各地區學生家長接送流程



(2)活用副讀本「未來的羈絆」推動防災教育

學習地區災害特性、提高防災意識 (名取市立百合丘小學)

學習計畫

- 作為五年級學生的課堂活動實施。
- 導入已學習的科學知識，讓學生在暑假前根據自己居住的地區，思考發生災害時該如何應對。
- 讓學生思考可能發生山崩的地點。
- 讓學生思考該地區哪些區域容易發生山崩以及疏散地點位於何處。



☆學區雖然為住宅區，但也有存在山崩危險的區域，因此課程會根據當地的災害特性進行安排。

☆學生也應學習氣象廳的天氣資訊、地方政府發布的疏散建議、指示等避難所需資訊的含義。

(2)活用副讀本「未來的羈絆」推動防災教育

學習災害的歷史並做好防災準備 (美里町立不動堂小學)

透過2015年關東、東北暴雨(911)造成的水災，讓學生了解居住地區也曾發生相同災害，並使其思考該如何做好防災準備。

美里町 水害の歴史	
年	できごと
明治 2年 (1869年)	こう水
明治 3年 (1870年)	こう水
明治 6年 (1873年)	こう水
明治 7年 (1874年)	こう水
明治 8年 (1875年)	大こう水 (鳴瀬川堤防決壊)
明治 10年 (1877年)	こう水 (江合川堤防決壊)
明治 11年 (1878年)	こう水
明治 12年 (1879年)	こう水 (鳴瀬川・江合川堤防決壊)
明治 13年 (1880年)	こう水
明治 22年 (1889年)	こう水 (6月, 鳴瀬川堤防決壊) 大こう水 (9月, 鳴瀬川, 江合川堤防決壊)
明治 23年 (1890年)	大こう水
明治 29年 (1896年)	大こう水
明治 30年 (1897年)	こう水 (江合川堤防決壊)
明治 40年 (1907年)	こう水 (鳴瀬川堤防決壊)
明治 43年 (1910年)	大こう水 (江合川堤防決壊)
大正 2年 (1913年)	大こう水 (鳴瀬川堤防決壊)
大正 6年 (1917年)	大こう水 (江合川堤防決壊)
大正 9年 (1920年)	大こう水 (鳴瀬川はんらん)
昭和 2年 (1927年)	こう水 (室戸台風)
昭和 9年 (1934年)	こう水
昭和 10年 (1935年)	こう水 (鳴瀬川・江合川はんらん)
昭和 11年 (1936年)	こう水
昭和 13年 (1938年)	こう水 (鳴瀬川堤防決壊)
昭和 16年 (1941年)	大こう水 (7月, 9月, 鳴瀬川決壊)
昭和 19年 (1944年)	大こう水 (カスリン台風)
昭和 22年 (1947年)	大こう水 (アイオン台風)
昭和 23年 (1948年)	大こう水 (キティ台風)
昭和 24年 (1949年)	大こう水 (江合川堤防決壊)
昭和 25年 (1950年)	こう水 (7月, 8月, 10月)
昭和 27年 (1952年)	こう水
昭和 27年 (1954年)	こう水 (台風33号)
昭和 29年 (1954年)	こう水 (台風6・7・14・15号)
昭和 33年 (1958年)	こう水 (台風26号)
昭和 34年 (1959年)	大こう水
昭和 41年 (1966年)	大こう水 (6月, 8月)
昭和 45年 (1970年)	大こう水

製作美里町受災年表



(2)活用副讀本「未來的羈絆」推動防災教育

地區講師，活用地區素材的防災教育 (栗原市立栗駒小學，七濱町立亦樂小學)



在與地區社會福利協議會合作下，
針對避難場所與避難所的確認進行
學習

於平成20年(2008年)岩手・宮城內陸
地震的受災地，學習當時的受災情
形



(2)活用副讀本「未來的羈絆」推動防災教育

支援學校的防災教育措施 (角田支援學校, 氣仙沼支援學校)



在角田支援學校, 演講者針對地震時該如何保護自己, 進行了詳細說明。

氣仙沼支援學校舉辦了緊急食物試吃體驗活動。高中部在體育館內設立了隔間, 讓學生體驗在避難所的生活。



(2)活用副讀本「未來的羈絆」推動防災教育

透過訓練再次確認支援方法 (築館高等中學)



與當地社區合作實施防災演練，針對獨居長者及需要特別照顧的家庭進行安全確認。

75名高中生作為資訊傳遞和收集團隊參加訓練。

與社區居民一同確認避難方法，如針對行動不便的高齡者使用輪椅進行避難引導等。

學生的心聲

- 這次站在幫助他人的立場，讓我了解到其中的辛苦以及應該怎麼做，是一次非常寶貴的經驗。
- 高中生即將踏入社會，希望自己也能好好地為社區做出貢獻。

(2)活用副讀本「未來的羈絆」推動防災教育

與地區居民合作海嘯避難訓練 (石卷市立青葉中學)



中學生作為地區的一員，負責接待與引導，並向社區居民及小學生進行說明

相互理解在校避難及社區居民的避難方法。由雙方共同進行儲備糧的分發及餐食準備工作。



(2)活用副讀本「未來的羈絆」推動防災教育

小學學區防災訓練(與家長會合作) (石卷市立廣淵小學)



石卷市廣淵地區防災訓練於小學進行。
學區內的中學生也積極參與訓練運營。
※自宮城縣北部地震以來持續進行

上午的課堂觀摩中，所有班級都進行了防災教育。家長們也一同參與，針對如何採取措施提升安全保障，如何保護生命進行思考。



東日本大地震後的具體措施

(3) 宮城縣災害時 學校支援小組的成立

宮城縣災害時學校支援小組

災害發生



- 發生場所
- 發生規模

聯絡調度



- 受災情形確認
- 掌握受災地的需求(教育面)

選擇派遣人員



- 根據受災地區的請求，從候選人名單中選拔派遣人員

確定派遣人員



- 確認本人意願
- 確認上級主管意見

研修中的反思・ 與其他團隊的合作



- 針對課題解決，進行研修
- 與兵庫・熊本進行資訊交流

團隊回顧



- 為下次派遣進行成果與課題共享

活動報告



- 當地現況
- 活動概要
- 持續支援的必要性 等

派遣至受災地



- 食衣住與安全面的確認
- 確保緊急時的連絡方式

(6) 宮城縣災害時學校支援小組的成立

支援小組養成研修會



東日本大地震後的具體措施

(4) 與相關機構(大學等)的合作

(5) 與相關機構(大學等)的合作

學校防災通訊「防災福袋」

宮城県教育委員会 学校防災だより

ぼうさい福袋

平成31年2月4日(金)発行

仙台管区気象台

避難訓練開始の合図に緊急地震速報を使ってみませんか。地震発生直後、強い揺れが来る前にテレビ、ラジオ、携帯電話等を通じて危険が迫っていることをお知らせする緊急地震速報。学校で緊急地震速報を見聞きした場合、どのような安全確保行動が考えられるでしょうか。机の下などに隠れることができない場合や、登下校中に児童・生徒はとっこの安全確保行動をとれますか。

なお、平成24年度に各校に配布したDVD「津波に備える」の資料編に「緊急地震速報を使った地震・津波訓練」というコンテンツがあります。ぜひ避難訓練にご活用ください。

国土交通省 東北地方整備局

先生必見！「防災教育ポータル」～新作動画も掲載～

国土交通省では、学校で授業を行う先生方をはじめ、皆様へ防災教育に取り組んでいただく際に役立つ情報・コンテンツとして、国土交通省の最新「ぼうさい」を研究開発した取組内容を掲載して使用できる教材例、防災教育の事例など8機関75サイトを紹介します。



東北工業大学

「訓練の本質とは何だろうか」

以前、電力会社で労働災害の研究に従事していたとき、電力設備が制御不能となり、非常に深刻な事態に陥った事故が報告されました。もし対応を誤れば、作業員が感電するだけでなく大停電が発生したかもしれない事例です。身の危険を感じながらも適切に対応にあたった作業員の語では、未経験の設備事故ではあったが、常日頃、事故対応の訓練をしていたため、意外と冷静に対応できたというのです。

人は学習する動物です。同じことを繰り返していると、次第に慣れていくものです。もし何かが足りないとすれば、厳しき作業環境で働く人たちの事故防止の取組について、一度調べてみてはどうでしょうか。訓練の本質が垣間見えるかも知れません。

早稲田大学

本学では、東日本大震災被災「東日本大震災復興支援室」を設け、被災学生の支援、被災地域への支援、研究を通じた復興支援の取り組みを進めてまいりました。また本学平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)では、東日本大震災翌日に、石巻市に震災ボランティア先遣隊を派遣して以降、延べ7,000名を超えるボランティアを被災地域に送り出してきました。そして現在も、学生部公認ボランティアサークル、東日本復興支援プロジェクト、学生ボランティア団体等の複数の学生団体が、地域に根ざしたボランティア活動を宮城県内各地で継続しております。

国土地理院

自然災害から身を守るためには、その土地の成り立ちや様子を知らることが大切です。国土地理院では、「地理院地図」を通じて、地形図や空中写真、地形分類など、様々な情報を発信しています。授業や学校からのお知らせにご活用ください。



また、身近な読み方や、地防災・減災の成果たす役割など紹介します。(問合せ)

防災科学技術研究所

防災教育のコンテンツです。防災まで災害特Web)を研究開発利用登録をする特性に関する防災対策とその実践事例やツールが利用できます。

東北大学災害

東北大学では、防災・減災に関する連携、協力に向けた協定を締結しました。その一環として、防災教育ポータルを、このページに代わり掲載しています。このページに代わり掲載しています。このページに代わり掲載しています。

Datefm

災害時に役立つ仙台。発行するサブ・メニューは選ばれた親子5人調査を実施して来ても掲載した「ボランティア」のという時の為の感想が。イェ Date fm 022-265-7112 迄。

宮城県教育委員会 学校防災だより

ぼうさい福袋

平成31年4月26日(金)発行

国土地理院 東北地方測量部

「自然災害伝承録」を地図に載せる取組を始めます。地域には、そこで発生した自然災害の被災状況や後世への教訓などを記した、石碑やモニュメントがあります。その存在は、地元の研究者や教育委員会等により収集・公開されてきましたが、必ずしも一般の人々に知られてはいません。

司から「地理院地東北地方と中心に順するための教育」で検索

研究センター

1のいのちを守る教大震災被災地におえ、いのちを守るの働き掛けを強及び首都直下地震的に展開する学校防災力向上を向上させ被災地研修や教職大地震警戒域地等に、教員免許持たせまます。関係機関ご協力をお願い申

14-3296

早稲田大学

被災の情報・啓発WAVE」を毎週学災科学国際研究会・津波を分か線を紹介する「東人住民をゲストにTALK」など情報に立ちまえて聞くことが出、バッテリー長//radisma.com/

宮城教育大学防災教育研修機構

宮城教育大学は7月18日、激甚化する災害に対し、教職員、防災・減災教育にかかわる知識の向上等を通じた防災・減災の強化を図るため、国土交通省東北地方整備局と協定を締結しました。調印に際し、佐藤克典東北地方整備局長は「災害時、自らの命は自ら守るために防災教育がきわめて重要。大学と連携して受け継がれていかなる社会を作りたい、また村松隆学長は「子どもが命を生かす力を身に付けるため、教員の指導力向上が求められている。双方の知見を生かしたい」と挨拶しました。今後、水害等に関する防災授業のブックレットを共同刊行する等で協働して

東北大学災害科学国際研究所

東北大学災害科学国際研究所では、東日本大震災に関するあらゆる記憶、記録、事例、知見を収集し、国内外や未来に共有する東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震災伝(しんろくでん)」に取り組みしています。東日本大震災の被災地を中心に、様々な視点から集められた記憶、記録、事例、知見は、学校や地域における防災教育の実践にたり、有用な学習材となります。ホームページ上で公開されている写真や動画などのデジタルデータについては、必要な情報を採りやすくなるためのキーワード検索機能が備わっております。「みちのく震災伝」で検索。問い合わせは、災害アーカイブ研究分野(022-752-2099)まで。

宮城県総合教育センター

宮城県総合教育センターでは、各学校における防災教育の中心的人材を養成するため、年間3回、各学校の防災主任を対象に研修会を開催しています。それぞれ専門知識を有した大学関係者や、先進的な取組を行っている学校関係者による講義・演習を行うほか、地域毎の防災教育における課題解決をめざした研究協議なども開催しています。平成30年度の研修会では、慶應義塾大学の木大聖子准教授をお招きし、講義をいただきました。平成31年度においても、宮城県の防災教育向上の一助となるために、より充実した研修会を開催していきたいと考えています。



ル)のご紹介、幼稚園・保育園を対象に、台風、また、地球温暖化サイトとして。防災教育にご活用ください。ow/fukuyouzai



ミヤギテレビ

ミヤギテレビは大震災を経験した後、宮城の将来を担う子どもたちの命を守ることが大切と考え、2014年から「おもてんてちゅう」を制作。今年は県内の小学校に入学した約2万2千人の新1年生へ配布しました。「おもてんてちゅう」は「自分の命は自分で守る」という基本的な意識を身に付けてもらうに、災害時などのような行動をとればよいのかクイズ形式で学べる防災ハンドブックです。ご家庭で親子一緒に読んでください。子どもの防災・減災で少しでも役に立ていただければ幸いです。



東日本大地震後的具體措施

(5) 學校與地區的合作強化

(5) 加強學校與地區的合作

3.11 石卷



鹿妻小学校体育館

(5)加強學校與地區的合作

東日本大地震時



由於平時就與以町內會等社區保持密切聯繫，因此在建立自治防災組織時，便能順利進行

每年舉行一次綜合防災訓練，並且自治會每年自主進行兩次訓練。這些事前對策有助於避免混亂發生

學校、家長與社區的合作讓我們成功克服了震災。真的是深深感受到「牽絆」的一年。

學生的安全確認和學校設施檢查等，本來應由學校執行的工作未能迅速完成

平時就與市政府相關部門、消防局、消防隊及地區自主防災會等保持聯繫，這個幫助很大。

由於避難所的運營由學校負責，因此在學校重啟時，許多業務加疊，給學校帶來了沉重的負擔。

(5)加強學校與地區的合作

地區學校安全委員會

1 名稱 地區防災連絡會

2 構成成員

- | | |
|-----------|-------------|
| (1) 區長 6名 | (7) 中學校防災主任 |
| (2) 消防署 | (8) 校長 |
| (3) 消防團 | (9) 副校長 |
| (4) 警察 | (10) 教務主任 |
| (5) 市役所分所 | (11) 防災主任 |
| (6) PTA會長 | (12) 安全部 |

3 舉辦日・場所(H29)

- (1) 7月12日(三) 15:00～體育館2F防災據點室
- (2) 10月 3日(二) 15:00～體育館2F防災據點室
- (3) 11月 27日(一) 18:00～體育館2F防災據點室
- (4) 2月 21日(三) 17:30～相互支援中心



(5)加強學校與地區的合作

地區學校安全委員會

4 協議事項

(1) 第1回

- ① 關於學校防災手冊
- ② 關於避難訓練
- ③ 假日・夜間的災害應對
- ④ 市綜合防災訓練的參加體制

(2) 第2回

- ① 假日・夜間的災害應對
- ② 市綜合防災訓練的運營

(3) 第3回

- ① 市綜合防災訓練第Ⅰ階段
- ② 市綜合防災訓練第Ⅱ階段

(4) 第4回

- ① 回顧平成29年度(2017年)
- ② 關於石卷市綜合防災訓練
- ③ 其他





兒童・居民共同避難訓練

(5) 加強學校與地區的合作

石卷市綜合防災訓練



消防隊進行消防訓練





水桶接力訓練



受傷人員應對訓練



陸上自衛隊提供的飯菜(山形風芋頭鍋)



防災直升機的教員活動觀摩

(5) 加強學校與地區的合作



(5)加強學校與地區的合作

地區學校連絡會議

成果

- 社區兒童保護意識增強
- 從依賴學校到以社區為主導的防災
- 與社區連結的最佳工具:「防災」
- 培養教師的”安全感”與”責任感”



不過、現在…



1 教職員的大量退休與招聘時代

轉變為「未經歷過震災的世代」向「不知道震災的世代」進行傳達的時代

2 學校和社區普遍的正常偏見

「地震不會再來了，接下來就是南海海槽」的誤解。

3 平靜時光的日常化

「危險是別人的事…」缺乏將危險視為與自己有關的事的想像力

STOP!!

震災經驗的風化



再度加強與充實避難訓練

避難訓練的充實與再強化

- 培養能夠「保護自己生命」的孩子
- 建構守護兒童生命的學校防災體制
- 與相關機構的合作
- 與社區一起守護孩子和居民的生命

避難訓練の模様(國小)

強化避難訓練，以防止震災經驗的風化

避難訓練指導套裝

·避難訓練檢查清單

與東北大學災害科學國際研究所防災教育協作中心共同製作關於地震與海嘯避難訓練的檢查項目

·建議集(Q&A)

負責安全的主幹教師前往所管轄的學校避難訓練現場時，對防災主任等人員進行改進指導所使用的參考資料

·避難訓練影片DVD

具體呈現地震與海嘯避難（訓練）時，教職員應採取的指示與行動內容。構成設計讓基層教師至管理職人員，都能一目瞭然了解各職位應注意的重點。

背景

○自震災發生至今已過八年，學校現場對震災經驗的記憶正逐漸淡化。

○雖然各機關進行了不同內容的研習（課堂講授），但對於「整體教職員」的記憶淡化現象，仍無法有效遏止。

○人員更迭頻繁，震災經驗的傳承多僅止於口頭傳述。

○在避難訓練中進行實際避難引導等，透過實作行動傳承意識與技能是必要的。

大學

避難訓練的強化



學校訪問
活用SNS的遠端指導等

協定

學校

學校

學校

安全主任 教師

學校訪問

研修(演講·資訊交換)

縣教委

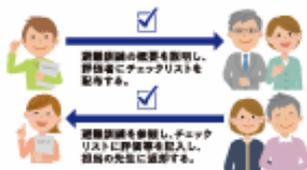
學校

學校

學校

先生方へ

この避難訓練チェックリストは、各学校の避難訓練を評価してもらう際に使用します。“評価者”は、保護者・地域住民・他校の安全担当主幹教諭等が考えられます。多様な視点から避難訓練を参観・評価してもらうことで、多角的・客観的な気づきを得ることができます。児童生徒等・教職員のみり返りに加え、それらの気づきを各学校のマニュアル等の見直し・改善に繋げていきましょう。



避難訓練のポイント

危険管理マニュアル、学校安全計画等の見直し・改善に繋げる。



※文部科学省「学校の危険管理マニュアル作成の手引」(平成30年2月)
 危険管理マニュアル作成・見直しの手順例をもとに作成
 ※みやぎ避難訓練指導パッケージ「教職員研修会」(PDCAサイクルをいかした避難訓練(地震・津波災害対応))も参考にしてください。

みやぎ避難訓練指導パッケージ作成委員会
 林田由都 宮城教育大学防災教育研修機構講師(作成代表)
 佐藤 健 東北大学災害科学国際研究所教授
 戸田芳雄 日本安全教育学会理事長・明海大学客員教授

避難訓練チェックリストにおける評価の視点(目指す姿)

児童生徒等



初期対応、二次対応等に際し、自らの安全の状況を選択し判断し、自他の生命の尊重を基盤として、主体的に行動している。

教職員



■防災教育

児童生徒等が防災教育で身につけた力を発揮し、安全な行動を考え、判断し、主体的に行動できるよう働きかけている。

■防災管理

児童生徒等の安全および、教職員自らの安全も確保しながら、危険管理マニュアル等に応じた適切な対応をしている。

■組織活動

すべての教職員が、各人の役割をふまえ、一丸となって避難訓練に取り組んでいる。
 ・家庭・地域住民・関係機関等と、目標を共有し、円滑に協働している。

みやぎ避難訓練指導パッケージ



家庭・地域とともに

みやぎ避難訓練指導パッケージ作成委員会

PDCAサイクルを
いかした



避難訓練 チェック リスト

今回の避難訓練の概要

訓練種別	<input type="checkbox"/> 地震 <input type="checkbox"/> 火災 <input type="checkbox"/> 地震+火災 < <input type="checkbox"/> その他に想定する二次災害等 >	
学校・園名		実施日時
災害想定		
目 標		
場 面	<input type="checkbox"/> 授業中 <input type="checkbox"/> 休み時間 <input type="checkbox"/> 部活動/放課後 <input type="checkbox"/> 登下校 <input type="checkbox"/> 学校行事 <input type="checkbox"/> その他()	
一次避難	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 校庭 <input type="checkbox"/> その他()	
二次避難	<input type="checkbox"/> 校庭 <input type="checkbox"/> 校舎(廊下/校舎の 隣) <input type="checkbox"/> その他()	
三次避難	<input type="checkbox"/> 校地外() <input type="checkbox"/> その他()	
■管理職等が不在の想定をしていますか。	想定していない ・ 想定している(⇒不在と想定する教職員名:)	
■児童生徒等は、これから避難訓練が実施されることを知っていますか。	日時を知っている ・ 日付のみ知っている ・ 知らない	
■自校の教職員・児童生徒等以外に、今回の避難訓練に参加する方(保護者・地域住民等)はいますか。	いない ・ いる(⇒)	
■その他、不測の事態や特別な状況等を想定している場合は、ご記入ください。	()	

※校地内/校地外が使用できない、危険な状況下での発生、多様な状況の訓練、緊急避難訓練等への対応、教職員一斉退避等が行われる部分がある等

<付記>
 本研究は、東北大学災害科学国際研究所リソースを活用した共同研究成果。日本安全教育学会特別研究、研究費(20K13985)の助成を受けて、実施いたしました。

学校における避難訓練評価の目的以外での、無許可の転載・複製・転用等は、固くお断りいたします。
 お問い合わせは、みやぎ避難訓練指導パッケージ作成委員会(国立大学法人宮城教育大学防災教育研修機構内)022-216-3296までお願いいたします。

学校の避難訓練チェックリスト

このチェックリストは、避難訓練、危機管理マニュアル等の見直し・改善のための参考とさせていただきます。
ご記入後、各学校の担当の先生にお渡しください。ご協力宜しくお願いいたします。



評価者の皆様へ

- 自校の保護者・地域住民等
 保護者 地域住民 コミュニティ・スクール委員
 その他)
- 他校/学校外の防災関係者等
 安全担当主幹教諭 防災主任 指導主事
 警察・消防関係者 研究者 その他)
- 校内での自己評価
 校長 教頭 主幹教諭 教務主任
 防災主任 児童生徒等 その他)

- ▶ 担当の先生から、実施する避難訓練の概要について説明を受けてください。
- ▶ 各チェック項目を10点満点で評価し、所属欄に記した点などをまとめてください。
- ▶ 職員室における避難や校内災害対策本部の話し合いの様子などを評価する際は、教職員の声が届くような距離に近づいていただいでください。
- ▶ 評価者が分かりにくい場合は、担当の先生におたずねください。
- ▶ 參觀場所等の都合により確認できなかった項目は、評価欄に詳細を引いてください。

氏名 (任意)



児童生徒等の取組

キーワード	チェック項目	評価
① 的確な初期対応	発災段階に応じて、自らの命を守るための初期対応を自発的にとることができている。 地震 物が「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を自身で探し、扉部を守る姿勢をとっている。 火災 非常ベルが鳴動した際に、落ちついて校内放送や教職員の指示を聞く姿勢をとっている。	10点満点中 点
② 的確な二次対応	「おは-しも」に気をつけながら、発災段階に応じて、想定される二次被害等をふまえた避難行動をとることができている。 地震 窓ガラスや落下・転倒の危険性のあるものを避け、扉部を守りながら避難している。 火災 鼻や口をハンカチ・衣類等で覆いながら、姿勢を低くして避難している。	10点満点中 点
③ 積極的な参加	真剣な態度で、状況に応じて他の児童生徒等と協力(手をつなぐ・声かけ・助け合い等)するなどし、すずんで参加している。	10点満点中 点
④ 指示の聞き方	教職員からの指示があった場合、落ちついてその指示を聞くことができている。	10点満点中 点

所見(児童生徒等の取組)

.....

スマホ・タブレットでも評価・所見が入力できます。



教職員<防災教育>の取組

キーワード	チェック項目	評価
① 臨場感ある声かけ・雰囲気づくり	児童生徒等が自分ごととして避難訓練に向き合うよう、臨場感や緊迫感のある声かけや雰囲気づくりをしている。	10点満点中 点
② 安心させられるような声かけ	児童生徒等を安心させられるような声かけをしている。	10点満点中 点
③ 的確な指示	避難行動や避難経路について、児童生徒等に明確な指示を行っている。	10点満点中 点
④ 創意工夫	児童生徒等が、自ら判断し、行動することができるような場面を設定するなど創意工夫をした避難訓練を実施している。	10点満点中 点



教職員<防災管理>の取組

キーワード	チェック項目	評価
⑤ 安全な避難行動	児童生徒等の安全および教職員自らの安全も確保しながら、避難行動をとっている。	10点満点中 点
⑥ 本部の設置	管理職等が迅速に集合し、校内災害対策本部(旗を立てるなどして示すことが望ましい)を立ち上げ、校長等を中心に、どるべき行動の協議・決定をしている。	10点満点中 点
⑦ 情報の入手・整理	避難行動の検討・選択に有効な情報を、積極的に入手・整理している。 地震 ラジオ、防災無線、タブレット、その他の情報ツール、校舎・校地の地図等 火災 第一発見者による火災の程度・場所等の正確な報告、初期消火の可否や状況、校舎・校地の地図、風向き等	10点満点中 点
⑧ 非常持ち出し袋	必要な物資を揃えた非常持ち出し袋を、避難の際に各担当者が持ち出している。	10点満点中 点
⑨ 避難経路の確認・周知	避難経路及び校舎・学校周辺の状況の確認を迅速に行い、使用可能な避難経路を教職員・児童生徒等に周知している。	10点満点中 点
⑩ 児童生徒等の安全確認	児童生徒等の検査(校内を巡視し、逃匿者の有無を確認)、安否確認、点呼を、迅速かつ的確に行っている。	10点満点中 点
⑪ 不測の事態への対応	傷病者・安否不明者、その他のトラブル等が生じた場合(そのような想定を含めることが望ましい)、状況に応じて柔軟に対応している。	10点満点中 点



教職員<組織活動>の取組

キーワード	チェック項目	評価
⑫ 各自の役割の遂行	教職員一人ひとりが、各自の役割を認識し、着実に実行している。	10点満点中 点
⑬ 教職員同士の協力	教職員同士が声をかけ合うなどして協力し避難訓練に臨んでいる。	10点満点中 点
⑭ 家庭地域等との協働の想定	家庭・地域、関係機関、近隣の学校等との連絡体制(方法・タイミング・担当者)の確認・シミュレーションを、丁寧に行っている。	10点満点中 点
⑮ 家庭地域等との実際の協働	家庭・地域、関係機関、近隣の学校等と、実際に円滑に協働して避難訓練を実施している。	10点満点中 点

所見(教職員の取組)

.....



学校の避難訓練一覧のリスト

避難訓練の種類

種類	実施時期	実施内容
火災避難訓練	毎年10月	火災発生を想定し、避難経路を確認し、避難する。避難時間、避難人数を確認する。
地震避難訓練	毎年11月	地震発生を想定し、机の下や机の横に避難し、揺れが止まると机から立ち上がり、安全な場所に避難する。
津波避難訓練	毎年12月	津波発生を想定し、建物から避難し、高台や指定避難場所へ避難する。
台風避難訓練	毎年9月	台風発生を想定し、建物から避難し、指定避難場所へ避難する。
その他		

避難訓練の目的

避難訓練の意義

避難訓練の実施方法

避難訓練の評価

避難訓練の改善

所見 (避難訓練等の取組)

QRコード

教職員-組織活動-の取組

取組	実施時期	実施内容
教職員研修	毎年10月	教職員研修を実施し、教職員の資質向上を図る。
教職員会議	毎月	教職員会議を開催し、学校運営について話し合う。
教職員協議会	毎月	教職員協議会を開催し、教職員間の連携を図る。
教職員懇話会	毎月	教職員懇話会を開催し、教職員間の交流を図る。
その他		

所見 (教職員の取組)

FIS 見てわかる 赤井南小学校

10月

評価シート

「14年前的畢業典禮」

宮城縣氣仙沼市 階上中學校

畢業生代表

梶原 雄太さん

不安を抱えながら
人々は前を向いて...

階上中学校
熊谷良市校長

・気仙沼

宮城



對你而言

稀鬆平常的今日

可能是某個人曾深切渴望

能活到的寶貴明日

如果能明白

「理所當然到來的今日」

其實並非理所當然

那麼，是否就能更珍惜當下

更認真地活在此刻呢？